

特1  
2170

阿蘭陀本草圖經 全



国立国会図書館 タイトル『阿蘭陀本草図經』 請求記号 特1-2170

ガラス使用



阿蘭陀本草圖經 全





阿蘭陀本草圖經 全



阿蘭陀本草圖經序  
余自少壯性任于疏野而長崎而美...  
阿蘭陀之名醫而執九杖而學外...  
芳草木花葉之油治養病...  
不少非化流之所能及焉...  
世主始其大味...  
日本草綱目有不同者...  
意之故也...  
阿蘭陀本草圖經序



阿蘭陀本草圖經序

余自少壯住于肥洲長崎而兼官使而師事於阿蘭陀國之名醫而執几杖而學外療于茲有年焉夫阿蘭陀流者草木花葉之油治瘡痲疾痛或調和於膏藥得驗不為不多非化流之所能及焉故業此流者不可不知其名義其主治其氣味焉予嘗隨而游行山野而瞰見十草萬木亦日也因得十一千百矣僅至於五十餘種氣味功毒實與本草細目有不同者雖然非用私心是師傳經驗之微意也故綴一冊名阿蘭陀本草

白氏藏



陽月窓士叙

阿蘭陀本草圖經目錄

卷第一

本草





阿蘭陀本草圖經目錄

春草之類

- 一 ヒヨウラス 駒ヒキ草
- 二 セントウリヨムミノウリ タビラコ
- 三 ワアトロアヒヨシ 金毛草華
- 四 アルトミシヤ 艾葉ナリ
- 五 アヒヨシ 防風ナリ
- 六 カワハレ子レス 虎尾草
- 七 草エスロウコ 小蒜ナリ
- 八 夏草之類 山人參
- 九 カアアスカルワ 山人參
- 十 ヨルサハス上ウルス ナツナ

- 三 ナストロスヨシ 赤ウコ草
- 四 メシテ 薄荷
- 五 ウアデギスタリシヤアノ 麥門冬
- 六 サトレイカ 河原ヨモギ
- 七 ヘアテ子ツトル イラ草
- 八 ウエルトサルヒヤ 藿香也
- 九 アキリモウニヤ 鹿焼草
- 十 ハシリコシ 香薷也
- 十一 スイロシク スイナ草
- 十二 ホルトラアカ 馬齒莧
- 十三 シナルバアル 覆盆草
- 十四 ハツヘレ ナモミ草



五

フロ子ル

カツボ草

六

フロウリストウニセリ

石竹草

七

ブルフ

アラヒ

八

フラシタアゴ

車前草

九

レニハアル

小ハコ草

十

アツトザル

スイモ草

十一

ヘイフシケル

萍草也

十二

ヘルトアシテイモ

タシホ

十三

カ子

麻ナリ

十四

トウト子ツトル

ツリカ子草

十五

ヘイトロタラストロス

カキトウロ

十六

ラアデキスイリヤス

カラス扇

十七

ウエツテ

石見川草

十八

イツリコン

ツトキリ草

十九

ハツバアブリス

ケシナリ

二十

ハルヘイナ

益母草

二十一

カチヘシクルイト

半隻也

二十二

カリヨフアラタ

川原草

二十三

トウヒ子ツトロ

シロメ草

二十四

テストル

鬼アサミ

二十五

ルウタ

濱水薊

二十六

ヘシケル

イフシド

二十七

ホリホウテ

ワラヒ

二十八

ヘイトロセリ

芥也



九 アルケカシナ  
四 ケンフ  
四 レリヨウロシ

秋草之類

一 カモメリ  
二 フルカアサヤ  
三 コウトタル  
四 ヲラトロン  
五 ヘルトヘシケル  
冬草之類  
一 スコルヘシヤ  
二 カルモス

ホウソキ  
生姜  
白百合

野菊  
忍冬也  
萱草也  
小ナスビ  
山ブダウ  
鶏足草  
菖蒲也

三 モス  
四 ケレスニ  
五 ヘシテナレ  
木之類

岩松  
牛房  
當飯也

一 ロウザ  
二 カツレホウニヤ  
三 ヘルトフレイル  
四 ムウルハイ  
五 ハルシカホウム  
六 フロウリスサニフイニ  
七 サヒイナ  
八 セ子イフル

イバラセウビ  
枸杞也  
小デマリ  
桑也  
桃也  
庭床 山灯心  
イブキ  
ソナ松



九 ガラナタアツフ  
十 アルハナ

柘榴也  
ホソイナゴ

本草細目目錄終

春之部 七種

一 ヒヨウラス

和名駒牽草又トリス

其味辛冷正月ニ苗ヲ生ス莖細メ長シ莖長ナ五寸

二月花開クカモメリノ香ニ似タリ根ハ黄也男駒牽

ト云ハ花白ク子ナシ女駒牽ト云ハ花紫ニ葉ノ裏薄

赤ク子ナシ其狀芥子ノ如主治肺臟熱アルニ花ヲ採

リ銅ノ甑ニテ水ヲ入煎熱服ス胃ノ氣滯アルニ花ヲ

リ熱湯ニ浸ス一宿シボリ汁四十錢温メ飯前ニ服

ス小兒咽喉或胸痛ニ花ヲ搗水ヲ入一日一夜置シボ

リ出シ其兩日程一倍白砂糖ヲ入煉リ堅メ服ス頭痛

ニハアセトウナ鶏子黄白片ニ三味煉合付齒齦腫痛

ニハ花葉トモニ白砂糖三斤水三升入一升ニ煎シ淡





ヲ去リ能サマシ又花一升入フニスコニ入内へ風ノ  
入ヌヤウニ口ヲ包百日照キ用齒痛ニハ木綿ノセシ  
ニ塗リ付齒ニサス兼頭面ノ疵ヲ治ス熱毒腫ニ付患  
氣ヲ散花一握程アセトウナノ油一合入フラスコニ  
入五十日程日ニ干査ラ去用油ハ別ニ見タリ。根ハ  
膏敷ヲ治

春之時

ニ セントウリヨムミノウリス

和名タヒラコ

性温正月ニ苗生シ三月花開莖丸ク本紫ニハ末青板  
多茂リ毎枝花開ツボミ青ク先黄ニメ房ノ如シ葉ハ  
和ナリ 主治諸病ニ花ヲ採水煎シフラスコニ入  
用瘡ニ天目ニ一盃早腹ニ用小兒ノ虫氣ニ同服ス古  
キ腫物虚症ノ人ニハ花ヲ末シ蠟ヲ加へ煮解シ乃セ  
トウナノ油ヲ合能煉調へ貼ス婦人月水滞ニハ煎タ  
ル水ヲ温メ木綿ニヌリ産門ニサシテ効アリ孕婦人  
子腹中ニ死スルニ天目ニ一盃温テ腹ヲ洗ヒ温メ忽  
チ産ス毒虫咬ミ痛ニ温メ洗テ痛除也



三 ワアトロアヒヨシ

和名金毛花

性温二月苗生シ三月ニ花開ク其状細ニ色黄也莖  
葉頭ノ方薄白シ其状大ニメ吹切荒ク大ニ成也  
主治大人小児凡小使通シ難シ或ハ瘧疾寒熱甚シキ  
ニ葉ヲ煎シ用又陰干末メ右煎汁ニテ用也咽喉並齒  
齦腫痛ニ葉ヲ搗キ汁ヲ取麥ノ煎汁苳ノ花蜜漬茶  
錢煉合温メ含ミ吐出メ治ス凡虚之腫物再登ニハ葉  
ト蜜ト等分ニ合セコレヲ付テ治ス凡テ口瘡ニ用テ  
良シ



三  
二  
一  
...

四 アルトミシヤ

艾葉也 和名モリサ

性温二月ニ葉ヲ生シ秋花開キ根成莖以角ニ本葉  
多ク生表ハ緑ニメ裏青白野原田畠ニ多ク生三月三日  
五月五日七月七日ニ葉ヲ採後干ニメ用 主治葉採  
水煎用婦人月水滞ルニ服ニ兼テ腰足温良血吐血  
血崩不止腸風下血一切ノ血症ニ用

...





五 アヒヨシ

防風也

性温濱端ニ多生、四時不断春新葉ヲ生、芦頭ノ方里芋  
ノ莖ニ似タリ薄白メ脊ノ方赤班也未青葉緑也頭、フ  
タマタ、用ズ芦頭ヲ去、用、主治根ヲ採土氣ヲ洗白  
水ニ浸煎用石淋ニ温服ス月水調サレニ用齒痛ニハ  
此ヲ含ミ吐出入涙多出ル用咳嗽痰アレヲ治ス男子  
ノ頭風婦人ノ血氣ヲ治能上氣ヲ下ス風骨節ニメ  
ヒラ、キシヒル、ヲ治ス服痛用何モ湯ニ煮テ常ニ  
コレヲ飲ム一切風病ノ藥也

Handwritten text on the left page, including a large character '十' (Ten) and various bleed-through characters from the reverse side.





六 カワヘノ子レス

虎尾草

性温二月苗生ス莖葉細也芦頭ノ方黒赤葉和也莖  
多生<sup>ス</sup>根切路端岸ノカタハ<sup>ニ</sup>多生<sup>ス</sup>也 主治葉ヲ  
煎シ水ヲ取白糖ヲ加ヘ煉<sup>ス</sup>堅用肺臑<sup>ニ</sup>服<sup>ス</sup>能風邪ヲ  
治<sup>ス</sup>痰咳嗽ニ用<sup>ス</sup>或石淋ニ用<sup>テ</sup>能<sup>ス</sup>小便利<sup>ス</sup>

七 エスロウコ

小蒜也

和名小ビル

性微热正月苗ヲ生二月盛也三月<sup>ニ</sup>夕ウ生<sup>ズ</sup>實<sup>ル</sup>其<sup>ノ</sup>味<sup>ハ</sup>甘  
熟<sup>メ</sup>黒根白<sup>ク</sup>形丸葉少長<sup>ク</sup>田畠<sup>ノ</sup>或ハ路邊<sup>ニ</sup>生<sup>ス</sup>其<sup>ノ</sup>味<sup>ハ</sup>甘  
辛ヤサ<sup>イ</sup>ニモ用事有<sup>ル</sup>生<sup>ニ</sup>テ<sup>ハ</sup>食<sup>ハ</sup>久<sup>ク</sup>食<sup>ハ</sup>人<sup>ヲ</sup>損<sup>ス</sup>  
主治脚気風病ニハ忌<sup>ム</sup>頑瘡愈難<sup>ニ</sup>用<sup>テ</sup>尤<sup>モ</sup>痛甚<sup>ク</sup>用<sup>テ</sup>能<sup>ク</sup>中<sup>ヲ</sup>  
温穀ヲ消<sup>シ</sup>氣ヲ下<sup>ス</sup>何<sup>モ</sup>實<sup>ヲ</sup>搗碎<sup>キ</sup>汁ヲ用<sup>テ</sup> 兼<sup>テ</sup>  
ノ肉ト同食<sup>ス</sup>レハ氣ヲ大<sup>ニ</sup>集<sup>メ</sup>陰内痛ヲナ<sup>ス</sup>三月<sup>ニ</sup>食<sup>ハ</sup>事<sup>ヲ</sup>  
勿<sup>レ</sup>

阿蘭陀本草図経 小蒜 性微熱 正月苗ヲ生 二月盛也 三月ニ夕ウ生ズ 實ル 其ノ味ハ甘 熟メ黒根白ク 形丸葉少長ク 田畠ノ或ハ路邊ニ生ス 其ノ味ハ甘 辛ヤサイニモ用事有ル 生ニテハ食ハ久ク食ハ人ヲ損ス 主治脚気風病ニハ忌ム 頑瘡愈難ニ用テ尤モ痛甚ク用テ能ク中ヲ 温穀ヲ消シ氣ヲ下ス 何モ實ヲ搗碎キ汁ヲ用テ 兼テノ肉ト同食スレハ氣ヲ大ニ集メ陰内痛ヲナス 三月ニ食ハ事ヲ勿レ





夏艸之部

凡四十一腫

一 スリアフスカルフ

山人參

性冷二月ニ苗生葉細ニ莖少枝茂四月花開其状五ヤ  
ウ白花メ細長二三尺根白シ味甘辛田島邊多生四月  
八日ニ花ヲ採陰干メ用 主治疝血ヲ止花搗碎汁用  
金瘡治婦人月水調サレニ花ヲ水煎メ服煎夕凡查温  
メ婦人月水調サレニ腹温ム

二 ヲルサハストウニス

和名男ナツナ

気味辛寒無毒正月ニ苗生根白葉少長莖子生  
ニケシ本子熟スルマテ末花開也其形細白花也  
平ヒラクヤハスニ似タリ平沢由野多生二月ニ盛メ  
三月葉落夏ノ後子ヲ取陰干 主治葉ヲ取水煎メ  
ワラスコニ入用也腎臟滯小使血下空心温服月水  
下葉ヲ煎シ腰ヲ蒸温治金瘡出血温服疝愈肉瘦不順  
ナルニ葉ヲ搗汁ヲ取白蠟アセトウナノ油三味煉合  
温テ付テ良シ打撲血滯温服ス眼病ニハ根ノ搗汁ヲ  
用腫子ヲ明ニシウワヒ忽消ス風毒邪氣ヲ防ク赤白  
痢ニ根葉ニ服ス又淋病ニモ可也毒麩類ト同食ス  
ト脊痛猪肉ト同食スレハ命ヲ失ス 河豚魚ト同







四 メニテ

薄荷也

気味辛温無毒二月苗生葉緑也九厚莖四角ニ芦頭方  
紫也 主治葉採水浸銅コシキニ入イキノモレサ  
ル様ニシテ煎也半分程ニテラハ冷シ汁ヲ用脾胃ノ  
痛ニ常温服能気血ヲ補ヒ痛ヲ治ス孕婦子胎ニサレ  
上ルニ用テヨシ頭痛ニハ葉ヲ水ニ浸シシホリ糊ノ  
如ク煉堅又頂ニ又ハ瘧血下ニハ葉ト壺水各等分  
煉堅メ毎日此ヲ服

三 ナスナロハロ  
少莖葉ヲ青白葉身ヲ取  
産科書ニ載ル毒ニ月苗生ニハ葉ト壺水各等分  
煉堅メ毎日此ヲ服

五 ラアデキスターシヤアリ

麥門冬也

気味甘微寒無毒四時生ニ三ハ十月根ヲ採ル腹干  
シ土気ヲ洗ヒ心ヲ抜去日ニ干焙用鐵ヲ忌 主治  
根ヲ取搗キニ合水六合入火ト邊ニ宿置查ヲ去リ湯  
服ス腫氣ニ服ス月水調ワスメ痛ニ外ヨリ洗フ腎ヲ  
補精ヲ益口中乾咽燥ニ服  
ス心肺虚熱虚勞客熱ヲ治  
婦人乳汁出サレニ服ス身  
ノ色黒目内黄筋立手足弱  
用血道乱行不同ヲ定ム

六  
産科書ニ載ル毒ニ月苗生ニハ葉ト壺水各等分  
煉堅メ毎日此ヲ服



六 サトレイカ

和名河原ヨモギ

気味苦温無毒二月苗生葉細大ニ高キモノ三四尺也  
主治葉採ランビキニカケ水ヲ用熱甚ニ此ヲ服ス産  
前ニ服メ安シ難産ニハ煎カスヲ温メ腹ヲ温メ或ハ  
足ヲ温メテ良金瘡或ハ腫物ノ腐ヲ治ス能暎胃ヲ補  
腹中虫痛ニ用又アフセニテト云油ニ採テハヲウリ  
ヨアフセニテト云此草イタリヤト云因ノ野ニ生ス  
云リ此所ニテ戦キ負驗アルフハ油ノ書ニ見夕專  
金瘡ノ葉也

七 ヘアテ子ツトル

イウ草

性微温二月苗生茎本薄赤黒四角メ少平メ有中溝始  
クボミアリ葉ノ付ギハニ竹皮ヤウナルハカマ  
葉ハ綠色メ筋ウス白筋アイシニ葉ノ地クマ高茎下  
枝ニイケヲ生是ヲ取ニキニイケ立ヤウニメ浮腫凡  
フクレミテ痛ム一有然ヒ毒氣ナキ故ニ害ナシ里道  
キ処ニ多生スル也 主治衄血ニ此草ヲ揉和テ鼻  
ノ孔ニサシ入  
テ立止ル也

本草綱目卷之二十三 草部 阿蘭陀本草図経





八 ウエルトサルヒヤ

藿香也

気味辛温無毒二月苗生莖丸葉モ丸薄ノ和也枝ヲ生  
同付本モ少葉ニ三葉生也 主治葉ヲ煎用月水甚

下ニ服風水毒腫ヲ治霍乱心痛ヲ治小児吐逆ヲ止ム  
能筋ヲ通シ痛ヲ治能惡血ヲ去肝ヲ補ヒ氣ヲ調フ  
胃ヲ開キ食ヲ進メ又蛇来ルニ葉ヲ燒キ煙ヲアツク  
ハ来ラスト云リ

九 アキリモウニヤ

和名鹿麩草

気味苦冷无毒二月苗生莖圓頭ヨリ多生ノ中ヨリ  
ニ出テ黄ナル花開後子熟ス 主治腎肝臟痛ニ服

下血ヲ治ス何モ葉ヲ取陰子メ用小便血交々通ニ  
チン夕酒或ハ白湯ニテ服ス古キ腫物難愈ニハ

テイコヲ加煉

堅付テ愈疵ノ

血止ニ用又膏

ツキニモ用ル

也

十

香

此草は二月苗生、莖丸葉モ丸薄ノ和也。枝ヲ生  
同付本モ少葉ニ三葉生也。主治葉ヲ煎用月水甚  
下ニ服風水毒腫ヲ治霍乱心痛ヲ治小児吐逆ヲ止ム  
能筋ヲ通シ痛ヲ治能惡血ヲ去肝ヲ補ヒ氣ヲ調フ  
胃ヲ開キ食ヲ進メ又蛇来ルニ葉ヲ燒キ煙ヲアツク  
ハ来ラスト云リ



十 ハジリコン

香薷也

気味辛温无毒三月苗生、莖四角、少葉、莖少長、葉和、薄、香麝香ニ似、夕リ夏葉ヲ取、秋穂ヲ採、陰干、用亦、

火、忌ト云リ

主治葉ヲ煎、用或ハ生ニテ用モ可也

風滯、腹痛、服メ風ヲ去、又風眼ニ葉ヲモミ、汁ヲ取、水綿

ニ塗目ヲ温メ洗テ良、毒虫咬痛ニ用、霍乱腹痛吐逆ヲ

治、癰疔初癸ニハ黒燒ニメ用、即チ押散也、衄血ニ末、水ニ

テ服ス能水腫ヲ散、氣ヲ下ス

和名スイロシタ  
性冷二月苗生、三月花開、四月半ニ花落、莖圓青、立ニ筋  
アリ花赤メ味酸 主治葉ヲ採、ランヒキニテ煎、  
水ヲ用、又此水ニ白砂糖ヲ加ヘ煉合テモ用、友人小兒  
疳ニ氣付ニ用、石淋ニ湯ニテ服ス能積虫ヲ殺ス、眞毒  
ヲ解シ酒ノ醉并酒毒ヲ消ス

和名スイロシタ  
性冷二月苗生、三月花開、四月半ニ花落、莖圓青、立ニ筋  
アリ花赤メ味酸 主治葉ヲ採、ランヒキニテ煎、  
水ヲ用、又此水ニ白砂糖ヲ加ヘ煉合テモ用、友人小兒  
疳ニ氣付ニ用、石淋ニ湯ニテ服ス能積虫ヲ殺ス、眞毒  
ヲ解シ酒ノ醉并酒毒ヲ消ス

和名スイロシタ  
性冷二月苗生、三月花開、四月半ニ花落、莖圓青、立ニ筋  
アリ花赤メ味酸 主治葉ヲ採、ランヒキニテ煎、  
水ヲ用、又此水ニ白砂糖ヲ加ヘ煉合テモ用、友人小兒  
疳ニ氣付ニ用、石淋ニ湯ニテ服ス能積虫ヲ殺ス、眞毒  
ヲ解シ酒ノ醉并酒毒ヲ消ス







高 ハツレ

和名ナモミ也

気味辛温有毒四月苗生莖圓葉色緑メヒロク厚シ莖  
ニ班ナルアサアリ秋ニ至リ實ナル黄ナリ花アリ田  
野多生五月五日七月七日採テ用 主治産前常ニ  
服メ安シ大腸痛ニハ水突ニテ肛門突入テ良胸痛ニ  
服ス何モ葉ヲ採リ水煎メ用中風ニハ葉ヲ末シ酒ニ  
テ蒸丸シ用頭痛末メ湯ニテ用

十五 フロ子ル

夏枯草也

和名ウツボクサ

気味苦辛温有毒四月苗生四角也節ゴトニ葉ヲ生ス  
其状少長吹切細シ花形車輪ニ似タリ花六七ヤウ也  
其色紫或青白也穂青ノ鬚多山野ニ多生ス 主治  
咽喉腫痛ニ服ス中風身寒血風ト相戦テ熱瘡出ニ服  
小瘡或ハ脚氣ニテ膝痒ノ筋ヒキツルヲ治ス右何モ  
葉ヲ取水煎メ用也

和名ウツボクサ 夏枯草也 四月苗生四角也 節ゴトニ葉ヲ生ス 其状少長吹切細シ花形車輪ニ似タリ花六七ヤウ也 其色紫或青白也穂青ノ鬚多山野ニ多生ス 主治咽喉腫痛ニ服ス中風身寒血風ト相戦テ熱瘡出ニ服小瘡或ハ脚氣ニテ膝痒ノ筋ヒキツルヲ治ス右何モ葉ヲ取水煎メ用也



十六 フロウリストウニセリ

和名セキナク

気味苦微温二月苗生莖少葉細長柳ノ葉ニ似タリ色  
緑也四月花開其形少ハ重其色四色平沢山野ニ生  
主治花ヲ取細末メ温湯浸テ一宿其汁ヲ取白砂糖ヲ  
加煉合用熱甚キニ毎用一日ニ三度也産前ニ花葉ト  
ニラシキニカケ水ヲトリ服スレハ産シ易シ又腹  
痛ニモ可也

十七 マルバ

和名アヲヒ

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*



十八 フラシタアゴ

和名ヲハコ草

気味甘冷四時<sub>レ</sub>生ニ有春葉<sub>ヲ</sub>生色緑也其葉<sub>ハ</sub>口<sub>ノ</sub>長  
シ莖筋アリ花<sub>ハ</sub>閑其状細ニメ白<sub>ク</sub>子<sub>ハ</sub>十<sub>ニ</sub>五月ニ根<sub>ヲ</sub>採  
七八月ニ子<sub>ヲ</sub>取陰干ス主治葉莖<sub>ハ</sub>水煎<sub>シ</sub>用  
久年ノ瘡瘍痛<sub>ヲ</sub>治ス熱醒<sub>サ</sub>ルニ  
葉莖<sub>ハ</sub>細末メ醋ニ浸<sub>シ</sub>服ス又遠  
行ノ足痛ニ付テ愈

十九

和名小ヘコ草

性温二月苗生其状蕨ノ葉ノ如シ即穂<sub>ハ</sub>閑老タルヲ云  
相似タルモノ多シ引合<sub>セ</sub>分ツヘシ葉ノ先ニ  
替タル処有也莖本少黒<sub>ク</sub>多分一本ニ立<sub>テ</sub>  
生ル也平沢原野ニ多<sub>シ</sub>主治葉<sub>ヲ</sub>採  
水煎<sub>シ</sub>用

本草綱目卷之六 草部 小ヘコ草  
性温二月苗生其状蕨ノ葉ノ如シ即穂閑老タルヲ云  
相似タルモノ多シ引合分ツヘシ葉ノ先ニ  
替タル処有也莖本少黒多分一本ニ立テ  
生ル也平沢原野ニ多シ主治葉ヲ採  
水煎シ用



七 アツトサレ

和名スイモ草

気味酸冷无毒四時生春夏花開其形細メ色黄也  
莖少ク糸ノ如シ 主治葉ヲ採細末メ白砂糖ヲ加ヘ  
煎煉リ合セ用丸病後気力衰夕凡ニ用良  
ニ熱醒サレニラシキニテ煎シ汁ヲ用

本草図経 卷之九 蕘草 性温三四月苗生其形細葛如刺生葉形五形吹切大也  
秋至花開葉根凡ニ用 主治口中腫痛膿有テ齒莖損  
凡ニ根ヲ水煎シ常ニ含テ良赤白痢下血ニ  
煎汁ヲ温メ服ス癰ニハ葉ヲ煎シ蜜ヲ  
加ヘ空心ニ服ス又  
癰癧ニモ服ス  
外ニ付テ良シ

七二 ハイフヘンゲル

蕘草

性温三四月苗生其形細葛如刺生葉形五形吹切大也  
秋至花開葉根凡ニ用 主治口中腫痛膿有テ齒莖損  
凡ニ根ヲ水煎シ常ニ含テ良赤白痢下血ニ  
煎汁ヲ温メ服ス癰ニハ葉ヲ煎シ蜜ヲ  
加ヘ空心ニ服ス又  
癰癧ニモ服ス  
外ニ付テ良シ

本草図経 卷之九 蕘草 性温三四月苗生其形細葛如刺生葉形五形吹切大也  
秋至花開葉根凡ニ用 主治口中腫痛膿有テ齒莖損  
凡ニ根ヲ水煎シ常ニ含テ良赤白痢下血ニ  
煎汁ヲ温メ服ス癰ニハ葉ヲ煎シ蜜ヲ  
加ヘ空心ニ服ス又  
癰癧ニモ服ス  
外ニ付テ良シ



心

正二 (ル) アンテイヒ

和名 タシホ

性冷二月苗生莖若芦頭微赤其状四角也又少菱成十  
ルアリ葉吹切長大也叢生色緑花白其形圓アザニニ  
同開後星似夕リ三月花開平沢田野多生 主治葉  
ヲ取リ汁ヲシホリ用服病ニ良一日ニ五七度用日ノ  
内一入テ良水腫ニ陰干末メ蜜醋ニ調服湯火傷ニハ  
乳汁ニ調一塗ル一身腫痛或夜寝サレニ  
ハ煎シ服ス月水滯ルニモ同前也

和名 麻ナリ  
氣味 辛有毒二月半生長五六尺或八九尺至莖細葉細  
長色緑也莖四角ノ梢花開其状細メウス白男麻實ナ  
シ女麻實ナル黒メ油アリ 主治風邪身ニ有テ痛  
心痛或胸アシク  
吐セニト  
ス  
凡  
下或卒耳  
聾テ聞サレ  
何モ葉ヲ取鍋内ニ水半分ニ煎シ  
入水ヲ見合入ヨリ蓋メ煎シ  
ツメ服也

カ子ハ  
和名 麻ナリ  
氣味 辛有毒二月半生長五六尺或八九尺至莖細葉細  
長色緑也莖四角ノ梢花開其状細メウス白男麻實ナ  
シ女麻實ナル黒メ油アリ 主治風邪身ニ有テ痛  
心痛或胸アシク  
吐セニト  
ス  
凡  
下或卒耳  
聾テ聞サレ  
何モ葉ヲ取鍋内ニ水半分ニ煎シ  
入水ヲ見合入ヨリ蓋メ煎シ  
ツメ服也





トウト子ワトル

和名ワケカ子草

二月苗生莖平而里芋似夕リ微白葉細長  
和ノ綠色也花白其狀鐘ニ似夕リ花開陰向人家之邊  
初生 主治乳岩初発ニ葉ヲ取水ニ煮糊ノ如ク木綿  
ニ塗貼ノ忽散也温瘡ニ貼ス婦人赤白滞下ニ花ヲ  
取り末メ五十錢白砂糖百目各煉合毎服四錢妙也

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

性温二月苗生細ノ系ニ似夕リ

和名ワケカ子草

本黒赤葉四ノ錢似夕  
リ又錢草或ハ水草ニモ此ニ類スル有能見分ヘシ  
主治諸瘡久愈ス或疼痛スルニ葉ヲ  
搗汁ヲシボリ付血塊有ニモ用風温  
ニハ葉ヲ陰干シ湯有ニモ用風温  
ス病後耳聾閉瀉耳内ニ入ル也尤切  
々入テ良シ

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*





サハ、ニアデキスイリヤス 射干也 和名カラス扇

性温三四月ニ生其形扇ノ如ク花色赤五葉也表黒点有  
六月實熟其状丸メ黒至治胸痛水腫脹滿婦人月水滯  
石淋ニ右何モ葉ヲ水煎メ服ス

和名カラス扇  
性温三四月ニ生其形扇ノ如ク花色赤五葉也表黒点有  
六月實熟其状丸メ黒至治胸痛水腫脹滿婦人月水滯  
石淋ニ右何モ葉ヲ水煎メ服ス

ホ七 ウエニテ

和名石見川草

性温四月苗生土地高前畑生莖少葉状牛ヒタイニ似  
タリ葉莖凡ニ細刺有六月花開細ノ白ツホミハ赤又  
枝葉花實凡ニ能似タ凡有不可誤六七月ニ葉ヲ取暴  
乾シ用根ハハ九月取暴メ用 主治一切ノ風ヲ能  
去也風ニテ腹痛スルニ  
用葉莖凡ニ水煎メ腹ス

和名石見川草  
性温四月苗生土地高前畑生莖少葉状牛ヒタイニ似  
タリ葉莖凡ニ細刺有六月花開細ノ白ツホミハ赤又  
枝葉花實凡ニ能似タ凡有不可誤六七月ニ葉ヲ取暴  
乾シ用根ハハ九月取暴メ用 主治一切ノ風ヲ能  
去也風ニテ腹痛スルニ  
用葉莖凡ニ水煎メ腹ス





六八 イツヘリコシ

和名ヲトキリ草

用葉... 性冷... 尺葉大也... 針ニテ刺シ... 吐血ス又温熱ノ泻痢ヲ止ム... 花ヲ末メ白砂糖ヲ加煉合ニ錢或三... 末シ一切ノ痛ニ用

六九 ハツハアブリス

和名ケシ也

性冷十一月子ヲ蒔十二月苗生正月漸ク成長高三四  
尺葉大也綠莖圓四月花開芙蓉花似夕日色白一重或  
八重又紫ナル有八九月實熟花落實熟セサル内竹ノ  
針ニテ刺シ白汁出ヲ取夕夕フヘニテ乾シ用葉ハ無毒  
メ食スヘミ子ハ多食不可諸病ニ禁ス多食ハ氣塞  
吐血ス又温熱ノ泻痢ヲ止ム 主治夜寢サレニ皮  
ヲ搗碎キ水煎メ卧時ニ温服ス小兒咳嗽咽痛スルニ  
花ヲ末メ白砂糖ヲ加煉合ニ錢或三  
錢毎朝用ユ又子ヲ  
末シ一切ノ痛ニ用



三

ハルヘイサ

和名益母草

性冷二月苗生茂生葉綠色銅鐵ヲ忌

主治頭痛

水煎ノ木綿ニ浸シ額ニ付又口サアロンノ油少醋少

加ヘ右ノ如用モ可也齒痛ニハ水煎シ含ミ漱テ妙也

積聚ニハ根葉ニ水煎メ空心ニ服ス石淋ニハ葉ヲ

水煎シ查ヲ去鶏子白ヲ加ヘ煮淡ヲ去再煎サマシ白

砂糖一倍入糊ノ如ク煉温服ス瘡ニハ葉ヲ陰干シ末

メ一錢癩ル日空心ニ服ス久瘡愈カタキニハ同未瘡

ニテ煉リ木綿ニ塗貼ス能惡肉ヲ去テ愈毒虫咬ニハ

葉ヲ用又一身卒ニ浮腫シ身赤痛キ葉ヲ醋ニ浸シ壺

ニ入口ヲ封シ後汁ヲシホリ付テ良藥ノ效高三四

性温八月根ヲ採又五月採モ可也然ハ根小メ輕シハ

半夏也

月ニ採ハ根大メ重シ主治陰虛ノ者根ヲ採土氣

ヲ洗ヒ乾シ細末メ四五合早腹ニ白湯ニテ服ス腎水

ヲ益ス又咽喉腫痛心下カタキヲ治ス心腹胸臍ノ間

ニ熱塞ルヲ治ス咳嗽ヲ治シ汗ヲ止ム



或ニカリヨフアラタ

和名川原草 一名丁子草

性温二月苗生莖四筭ヲ生節間長葉状サキ大ニ丸メ  
スジ細シ六月少黄花ヲ開五ヤウ也根ノ皮微黒香丁  
子ニ似タリ 主治腹中風有虫痛ニ服ス毒虫咬ニ  
根ヲ採搗汁ヲシホリ中ニ浸シ痛上ニ塗ル肝臟滯ニ  
アダフ酒或ハ水ニテモ根ヲ煎シ服ス打撲 疔瘡瘡血

腹中ニ入テ痛ニモ右ニ同ニ能瘀血ヲ去也諸瘡膿去ラサ  
ルニ水煎メ巾ニ浸腫物ノ上ヲ洗フテ患肉ヲ去常ニ  
水煎メ一椀ヲ温服ス脾胃ヲ養

本草綱目卷之八 木部 丁子草 一名川原草 一名丁子草 性温 二月苗生 莖四筭 葉状 生節間長 葉状 大ニ丸メ 六月少黄花 根ノ皮微黒 香丁子ニ似タリ 主治 腹中風 有虫痛 肝臟滯 瘡血 打撲 瘡血 去也 諸瘡 膿去ラサ



世三 トウヒ子ツトロ

和名シロリ也

性温二月苗生莖圓高三尺餘葉九表緑ニ裏白也葉筋  
青ノ本末ニサシ通ル筋三有六月葉取り陰干メ用ハ  
月花開其状細長メ粟ノ如シ也川谷田野ニ生ス  
主治久瘡惡肉有ニ付血ニ葉ヲモミ鼻孔ニサシ入  
テ立止ム

留 ラストル

和名思アサミ

性微温二月苗生莖丸高三尺葉長大メ葉サキ刺アリ  
綠色也花開テ三月ヨリ秋ニ至ル其状星ニ似タリ赤  
白メ毛メ如シ平沢田野ニ多シ 主治諸病痛アル  
ニ根ヲ搗キニ夕酒或ハブダフ酒ヲ入者糊ノ如メ塗  
又諸虫耳ノ内ニ入甚痛ニハ耳ノ内ニ入テ忽虫死ス  
即キコユヘシ下血ヲ治ス一切毒名ノ腫物良也

本草綱目卷之六 菜部 菜類 思アサミ 二月苗生 莖丸高三尺 葉長大 葉サキ刺アリ 綠色也 花開テ三月ヨリ秋ニ至ル 其状星ニ似タリ 赤白メ毛メ如シ 平沢田野ニ多シ 主治諸病痛アルニ根ヲ搗キニ夕酒或ハブダフ酒ヲ入者糊ノ如メ塗 又諸虫耳ノ内ニ入甚痛ニハ耳ノ内ニ入テ忽虫死ス 即キコユヘシ下血ヲ治ス一切毒名ノ腫物良也



五五 ルウタ

和名濱水薊

性温三月苗生莖本大メ色薄黄也葍多葉茂メ叢生六月花開其狀粟粒ノ如油メ色黄子初ハ青メ熟メ白甚香草也主治小兒五疳虫癩ルニ葉ヲ取アセトウナノ油ニ浸シ煮テ温メ腹ニ又リテ虫下ル也大人小人凡ニ熱甚ニ葉十錢水ニ碗入一碗ニ煎シ服ス腹中風滯甚煩ニ右ノ煎汁スホウイハ耳ノ内ニ入ルニ可也  
ニテ肛門ニ突入既可也毒虫咬ニ即十口付テ痛止ム

性温二月苗生莖四立ニ筋アリ葍葉多茂綠色ノ葉九細花薄黄色ニ細也  
主治婦人乳汁出サルニ子ト兼ト各十錢水ニ碗一  
碗ニ煎シ空心ニ服ス風ニ腹痛ニ子ヲ末メ一錢白湯ニテ服ス孕婦子胸ニ上痛ニ葉根トモニ剪シ桶中ニ入坐メ腰ヲ温テ自下也脱肛イホノ如出テ痛ニ子ヲ黒燒ニメ末メ用

六六 ヘシケル

和名イノシド也

性温二月苗生莖四立ニ筋アリ葍葉多茂綠色ノ葉九細花薄黄色ニ細也  
主治婦人乳汁出サルニ子ト兼ト各十錢水ニ碗一  
碗ニ煎シ空心ニ服ス風ニ腹痛ニ子ヲ末メ一錢白湯ニテ服ス孕婦子胸ニ上痛ニ葉根トモニ剪シ桶中ニ入坐メ腰ヲ温テ自下也脱肛イホノ如出テ痛ニ子ヲ黒燒ニメ末メ用

性温三月苗生莖本大メ色薄黄也葍多葉茂メ叢生六月花開其狀粟粒ノ如油メ色黄子初ハ青メ熟メ白甚香草也主治小兒五疳虫癩ルニ葉ヲ取アセトウナノ油ニ浸シ煮テ温メ腹ニ又リテ虫下ル也大人小人凡ニ熱甚ニ葉十錢水ニ碗入一碗ニ煎シ服ス腹中風滯甚煩ニ右ノ煎汁スホウイハ耳ノ内ニ入ルニ可也  
ニテ肛門ニ突入既可也毒虫咬ニ即十口付テ痛止ム



オセ

ホリホウテ

和名ワラヒ

主治腹中痞ニ根ヲ煎シ汁ヲ用能痞ヲ退ル也頭痛ハ  
葉ヲ取醋ニ漬煎其柢木綿ニ塗頭ニ付即痛去ル

自下少脈... 腹中ノ入坐ノ脈ノ弱... 葉ヲ取醋ニ漬煎... 其柢木綿ニ塗頭ニ付即痛去ル... 味淡イ...

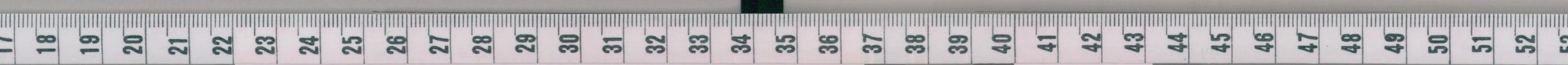
オセ へイトロセリ

和名セリ

性温

主治息臭キニ生ニテ用難産ニ搗細醋少加へ汁ヲシ  
ホリ滓ヲ去塩少加用テ安シ石淋ニ水セリヲ銅甌ニ  
テ煎シ水ヲ少ツ朝夕用耳鳴聞エサルニ生ニテ汁  
ヲシホリ一二滴耳内ニ入良ナリ

種ノ根ノ黄赤ニテ... 葉ヲ取醋ニ漬煎... 其柢木綿ニ塗頭ニ付即痛去ル... 味淡イ...













秋草之類

凡五種

一 カモメリ

野菊也

性温二月苗生莖紫ニ花黄也其状一重メ気香ク味苦香  
 気ナキハ用ス九月花ヲ採莖ヲ陰干ス火ヲ忌平沢谷  
 野ニ多シ 主治腹中風滯冷痛ニ花ヲ取水煎メ毎  
 朝温服ス能風ヲ去痛ヲ除瘡疾熱甚ニ兼シ陰干ニメ  
 一錢白湯ニテテ煎ル朝服ス頭痛ニ同陰干鍋ニ入炒テ  
 煙ヲ頭ニアテ良毒虫咬タルニ花ヲ陰干シ末メ一  
 錢白湯ニテ服ス尤口ニ塗テ良小使不通小腹痛ニ花  
 ヲ水煎メ木綿ニ浸シ小腹ニ温メアテ即通ス癰痲  
 ニ花ヲ末シ醋ヲ加一錢毎服筋氣脚氣ニ從カアセ  
 十ウ十ノ油ニ浸シフラスコ徳利ニ入百日曝シ滓ヲ

去油ヲ取膏藥ニ合セ付テ痛止也筋攣ノビカタクニ  
 ハ瓶ノ油ト右ノ油ト合シ冬ニ温夏ハ其マン塗テ其  
 上ニ膏藥ヲ貼ス風湿ノ類或熱腫ニハ右ノ油一味シ  
 用手足腰冷痛ニハ花葉トニ水ニ外トニ煎シ又ヨモキ  
 ノ煎湯等分ニ合セ温メ痛処ヲ洗フ

此の本草は、秋草の類に属する。カモメリ（野菊）の性質は温性で、二月に苗が生え、茎は紫色、花は黄色である。その形状は一重の花で、気味は香しく、味は苦く、香気はない。九月に花を採り、茎は陰干し、火を忌む。平沢谷の野に多く生える。主治は腹中風滯、冷痛、野菊の花を水で煎じて毎日朝に温服する。能く風を去り、痛を除き、瘡疾、熱甚、兼して陰干しに用いる。一錢の白湯に煎じ、朝に服する。頭痛に同様に陰干し、鍋に入れて炒め、煙を頭に当てると良薬である。毒虫に咬られたるに花を陰干し、末を一つ錢の白湯に煎じて服する。尤も口に塗ると良薬である。小使不通、小腹痛、花を水で煎じて木綿に浸し、小腹に温め、アテると即通す。癰痲に花を末し、醋を加えて一錢、毎服する。筋氣、脚氣に從う。アセテ、十ウ十ノ油に浸し、フラスコ徳利に入れて百日曝し、滓を去る。去油を取膏藥に合せて付て痛止也。筋攣ノビカタクニハ瓶ノ油ト右ノ油ト合シ冬ニ温夏ハ其マ塗テ其上ニ膏藥ヲ貼ス。風湿ノ類或熱腫ニハ右ノ油一味シ用。手足腰冷痛ニハ花葉ニ水ニ外ニ煎シ又ヨモキノ煎湯等分ニ合セ温メ痛処ヲ洗フ。



ニ マルカアリヤ

忍冬也

性平二月葉生四月花開其狀長ノ其色黃白金銀ノ如  
カツラ少メ皮薄赤又白青十月採テ陰干平沢谷野多  
主治手足腫痛或筋氣脚氣忍冬石昌根艾各等分煎之  
洗フ口中生瘡外堅リヲ生ニ用ユ禁之ニ生ル毒腫ニ  
早ク外ニ厚ク塗付上ラ  
木綿ニテ卷テ愈瘡潰ヘ  
サル前ニ用也疔瘡ニ根  
葉ニニ燒末メ白湯ニテ  
服ス

萱草也

三 コウトラルトル  
気味甘涼无毒



四 ヲラトロン  
気味苦微甘无毒

和名小茄

五 ヘルトヘンケル

和名山ブタウ

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 和名山ブタウ]*





冬草之類

凡五種

一 スコルヘンチヤ

和名鶏足草

性微温夏葉生四時花ニアリ其状莖細本黒葉細長ク  
筋アリ櫛ノ葉ノ如シ道端ニ多生 主治肺臟ノ痛  
ヲ止ム痰出ヲ治ス打撲メ痛ヲ治ス何モ葉ヲ煎用ユ

二 カルモス

和名菖蒲也

性温平澤谷岸ニ多葉ノ状細長ク高クスリヤニ強  
ク厚ク綠色也秋至ニ徳ノ生根ノ月 主治小便  
不通ニ又高ヨリ落テ骨痛ニ月疾ニ何モ根ヲ取リ土氣  
ヲ洗ヒ水ヲ見合入半分ニ煎用也能ク竅ヲ通シ耳目  
ヲ明シ音ヲ出シ腹ヲ温支  
四ノ濕痺ヲ治シ小便利スル

ヲ止ム或

食消シカ

タキニ根

ヲ生ニ行

服ス



三 五ス

和名岩松

性微寒其状横ヒロクメ平ク長四五寸綠色也莖ノ皮ハ  
鱗形ノヤウニテ細シ葉ノチキ分与アリ岩ノ間岸ノ  
片原ニ多生 主治能石淋  
ヲ治ス葉ヲ取水煎メ用ル也

四 ケスニ

牛旁也

性温四時用ニ種ヲ下メ常ニ断ヘス葉綠色ニメ大也  
八角ニ第高生六七月ニ花開子ヲムスフ熟メ後堅黒  
主治根ヲ採土氣ヲ洗ヒ末メ見合水ヲ入煎シ水半分  
月成時白砂糖ヲ加練堅メ萬病ニ用兼テ吐血痰出ル  
ニ毒虫鹽ヲ少加付ル氣カ衰腎精弱ヲ刺血ヲ出シ毒  
キニ鹽胡椒各ニ味合テ煉堅メ服ス  
風毒風湿ヲ治ス中風脚氣疝氣  
咳嗽何ニ服ス



五 一三十一

當飯也

性冷

主治根ヲ干末メ疵ノ上ニ付テ血ヲ止メ愈ス赤腹ニ  
同末メ一錢チニ夕酒或白湯ニテ用テ良

木之類

凡十種

性冷二月葉生三四月花開紫赤ナルヲロザアロント

云又紅ナルヲロウサト云木本薄白ク梢青葉圓メ莖

用或陰干或蜜漬或油ニ浸シ諸瘡ニ塗ル眼病熱甚疼

痛スルニ花水ヲ温メ洗フ大人小兒小便不通ニ湯ニ

白砂糖ヲ加

煉合服ス打撲痛ニ用  
同傷レ骨出ルニハ木綿ニ塗付テ良



白

性温莖生儿丁四特生断ス只春夏秋ノ間採リ用秋ニ

至テ子ヲ生ス也其状長莖棘ナキハ真ノ枸杞也

主治頭風ニテ湯水ヲ好ニ葉ヲ陰干メ四枚或五枚ヲ

二

浸シ服ス又髪ヲ黒ス食熱ヲ去上気ヲ下ス癰疔凡

二

服ス能腎ヲ補七虚症ノ血痢ニハ用ハカラ反所

三

ハルトフレイル 和名小テマリ

性

平二月花開其状テマリノ如ク色白シ葉少長三月

未

落花 主治一切急名ノ毒腫ヲ洗ヒ齒齦腫痛ニ

温

メ含テ良也何レモ花葉凡ニ十斤水ニ斗入煎用也



四 ムウルハイ

和名桑也

性冷二月葉茂ス其状廣原メ綠色也五月花開實ヲ結  
事粟粒ノ付ルカ如少長八角ニ見エ熟メ色黒 主治  
咽腫痛ヲ治ス痰出汁ヲ取白砂糖ヲ加煉毎朝服ス婦人  
月水甚下ルニ實ヲ陰干末メ一錢空心服又白砂糖ニ煮  
シ実ヲ搗シボリ汁ヲ取合メ温服ス下血ニ毛同前ナリ

五 ハルシカホウム

和名桃也

性温二月花開葉後生三月三日採陰干ス花葉實ヲ用  
主治小兒口中傷ルニ花ヲ末メ熱湯ニ浸シ置事一  
日シホリ鳥ノ羽ニテ塗ル小兒大使結スルニ小兒五  
疳ニ葉ヲ搗碎水ヲ入木綿ニ塗テ臍ノ上ニ付テ良也  
又大人小人小兒共ニ腹中痞アルニ実ヲ碎キ末メ服ス



六 フロウリスサシフイシ

和名庭床

性温二月葉ヲ生三月白花開一房メ茂水皮薄カギ色

葉四ツサキ少長シ蠟也メナメウカ也花状テマリニ似

タリ 主治肝臟痛ニ能水者メカモメリノ油ヲ加

煉合温テ木綿ニ塗腹ニ付痛止也癩疽甚痛ニ花ヲ水

煎メ糊ノコト<sup>煉</sup>リ堅メ付急散也癩症シワヲ<sup>煉</sup>キ品<sup>ル</sup>ニ充

ヲ煎茨ノ花ノ蜜漬ヲ加ヘ一日ニ三四五度服ス腫氣

指ニ出ニ花ヲ塩ニテ煎<sup>シ</sup>足ヲ蒸テ腫消ス衄血ニ花ヲ

水ニ入銅甑ニテ煎シ木綿ニ付温テ頂ニ付吐逆ノ後

登熱スルニ根ヲ搗キ汁ヲシボリ二十錢服ス水腫脹

満ニ一錢毎服ス

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*



七 サヒイナ

和名イブキ也

性温葉緑ニメ細シ四時片ニ茂スコノ手柏ニ似タリ  
然レ莖ノ皮ウロコノ如ク本ノ皮杉ニ似タリ  
主治葉ヲ取り煎用ル也小便通カタキニハ空心ニ服  
ス婦人月水滞ニモ同前也胞衣下サレニモ可也産婦  
顔色悪ニ細末メ四錢蜜少チニ夕酒少加煉合空心ニ  
温服ス

ハセ子イブル

和名ソナレ松

性温葉細五葉ノ松ノ葉ニ似タリ長シ香少ク似  
秋ニ至リ実成ル其状杉実ニ似タリ主治石淋并  
小便不通ニ實ヲ細末メ一錢白湯ニ服ス疫疾モ同前也  
或火ニ焼煙ヲ聞テ可也又痰気吐血胸痛或ハ打撲痛  
ニ水煎メ一碗ヲ服ス毒虫咬ニハ則口ニ付又内此ヲ服ス  
頭痛ニハコ<sup>此</sup>ノ油ヲ火ニ焼其香ヲ聞テ良小瘡ニハ皮  
ヲ燒キ灰ヲ取水ニ入瘡ヲ洗フ脾胃損シ食進サレニ  
用小兒ノ五疳ニ脂ヲ水ニ解キ服ス月水甚下ニモ同  
少温テ服ス久瘡疼痛ニハ脂ヲ末ニ付テ愈ス



九 カラナタアツフル  
性冷  
主治瘧疾熱甚ニ干シ水煎メ一小碗 每日早晨ニ服ス  
月水甚下ニハ花末メ五十目白砂糖百リ入能周入合  
一度ニ四錢 早腹ニ用

和名ガメロ也

十 アルハイ  
性冷

和名ホソイナゴ

主治口中熱シ菌浮キ痛ニ實ヲ用ヒ銅甌煎シ含テ熱  
痛ヲ除ク又赤腹ニ此葉ヲ水煎メ一碗服メ可也



特1  
2170

阿蘭陀本草図経 終  
享和四甲子孟春

十部  
三六  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十





